

2-9 生物の現況

(1) 陸生植物

大阪市は早くから文化が開け、土地利用が進んでおり、大阪港周辺地域の大部分は市街地や造成地となっている。

大阪港周辺地域における現存植生を図 2-9-1 に示す。大阪市の臨海部には市街地が広がっており、自然植生のみならず代償植生もほとんどみられないが、野鳥園臨港緑地及び淀川沿いにはわずかにヨシクラス植生が分布している。

なお、「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁、平成12年)によると、大阪港周辺地域には特定植物群落はない。

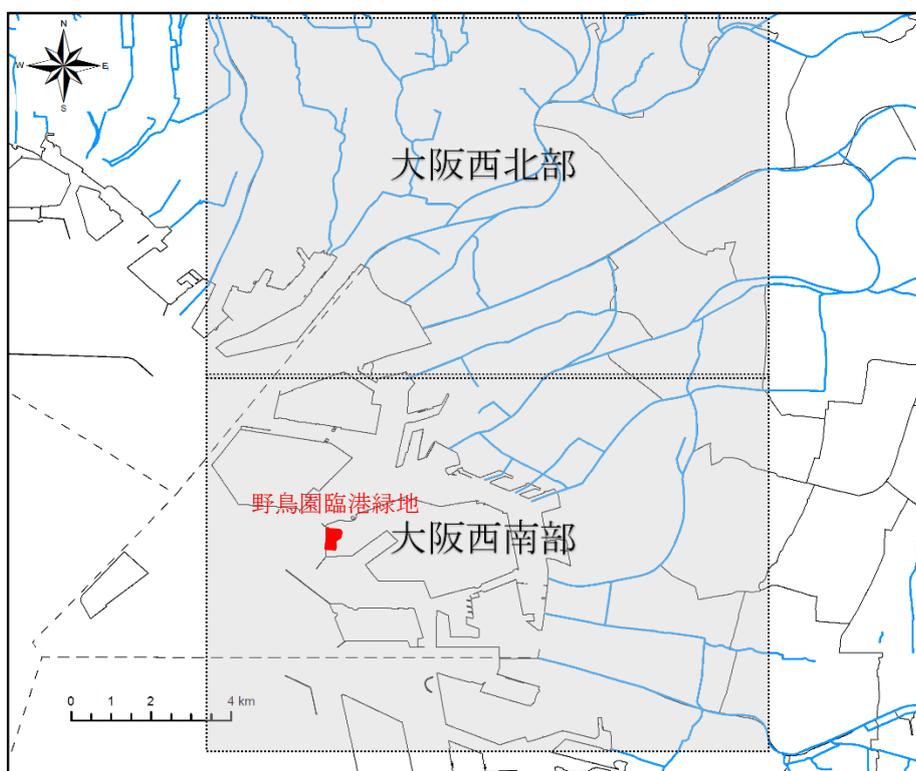
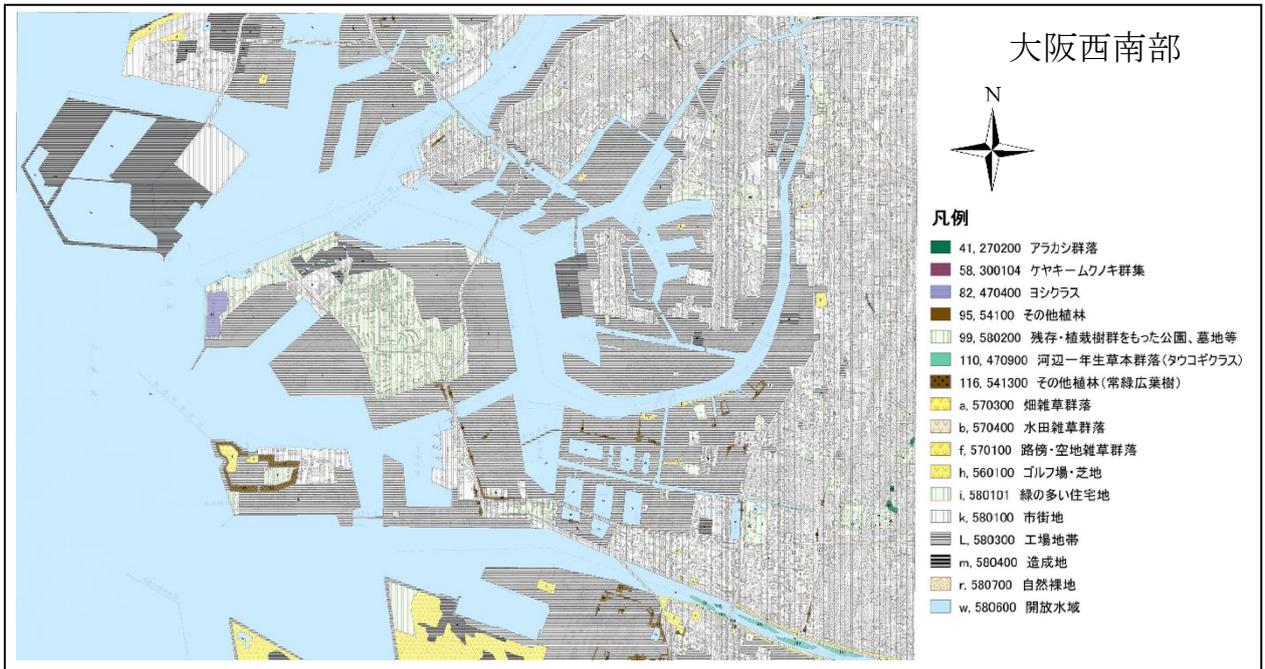
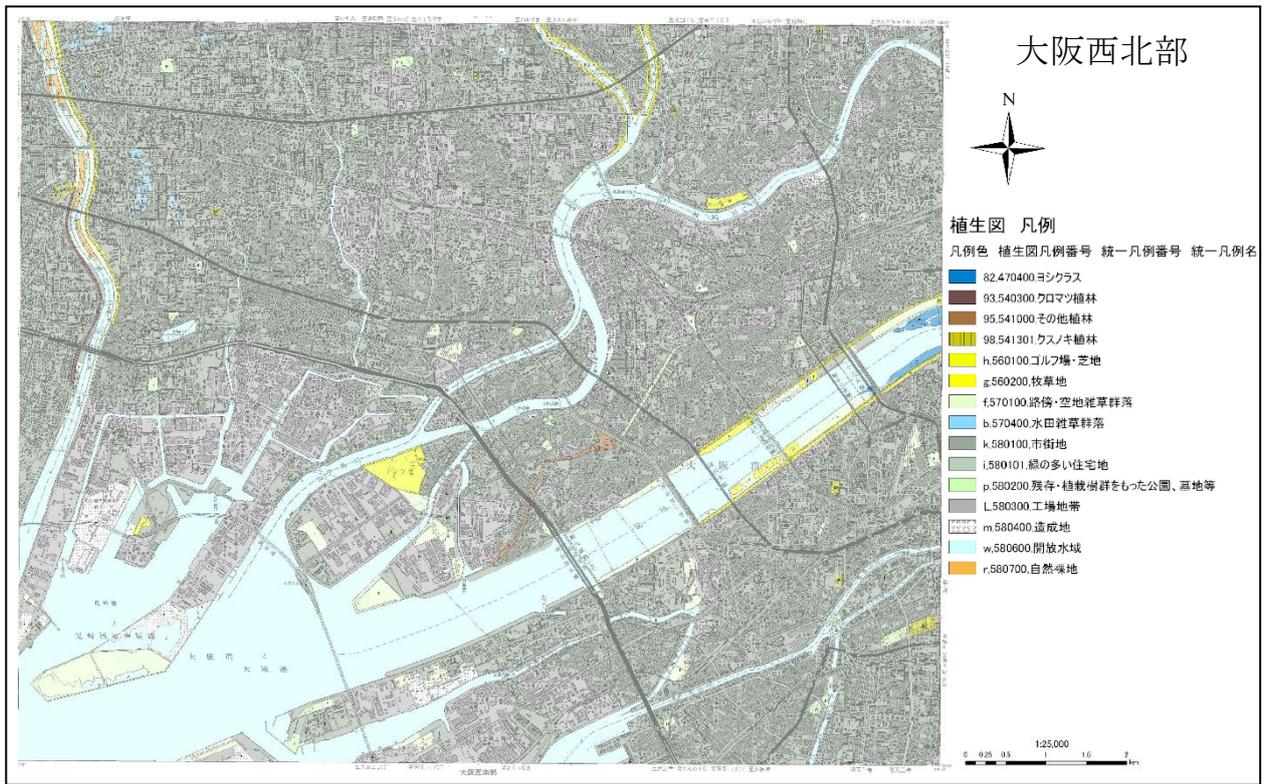


図 2-9-1 (1) 現存植生図の表示



出典：生物多様性センターHP 「<http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-002.html#webgis/523503> (大阪西北部)」
 生物多様性センターHP 「<http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-002.html#webgis/513573> (大阪西南部)」

図 2-9-1 (2) 現存植生図

(2) 陸生動物

1) 鳥類

①調査概要

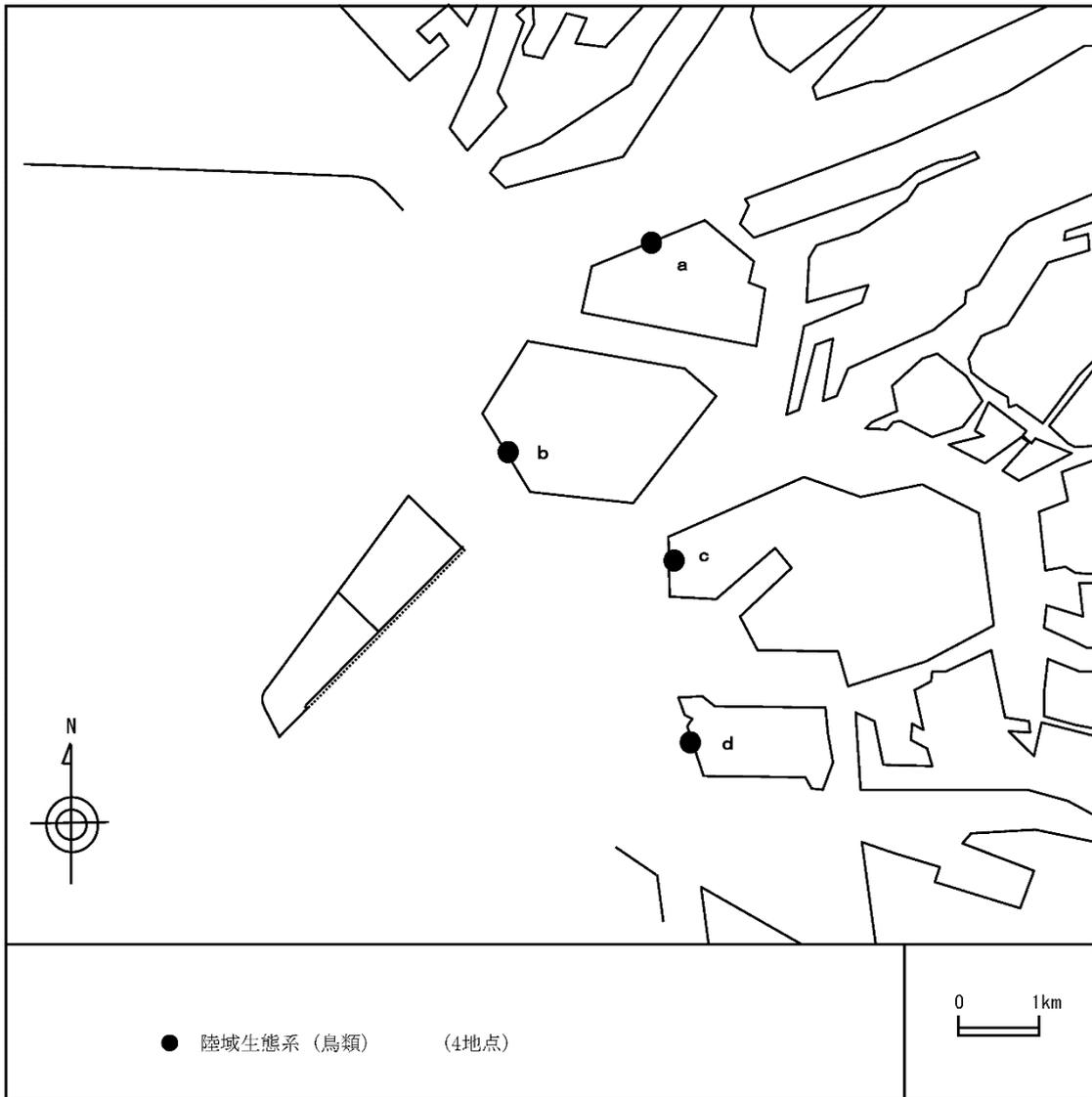
大阪港周辺では、大阪市港湾局等により鳥類調査が行われている。

鳥類調査の概要は表 2-9-1 に、調査地点は図 2-9-2 に示すとおりである。

表 2-9-1 鳥類調査の概要

調査項目	調査地点	調査期間等	調査方法
鳥類の生息状況	図2-9-2に示す4点 [a,b,c,d]	平成26年8月 平成27年2月 平成27年5月 平成27年6月	定点調査により行う。調査時間内に出現した鳥類の種類、個体数を記録 (双眼鏡及び望遠鏡を使用)

参考：「平成 26 年度 大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査報告書（年報）
I 事後調査概要」（国土交通省 近畿地方整備局・大阪市港湾局・大阪湾広域臨海環境整備センター、平成 27 年 8 月）



参考：「平成 26 年度 大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査報告書（年報）
I 事後調査概要」（国土交通省 近畿地方整備局・大阪市港湾局・大阪湾広域臨海環境整備センター、
平成 27 年 8 月）

図 2-9-2 鳥類の調査地点

②調査結果

鳥類の調査結果は表 2-9-2 に示すとおりであり、ノスリ、コチドリ等 9 目 28 科 79 種の鳥類が確認されている。また、表 2-9-3 に示す選定基準により選定された重要種は表 2-9-4 に示すとおりであり、コアジサシ等 38 種の重要種が確認されている。

表 2-9-2 (1) 鳥類の調査結果

【平成26～27年度（平成26年8月、平成27年2月、5月、6月）】

目	科	種	区分	地点別出現個体数				
				a	b	c	d	計
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥		14	15		29
		ハジロカイツブリ	冬鳥	4	12			16
		カンムリカイツブリ	冬鳥	2	3		15	20
ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	85	314	15	94	508
コウノトリ	サギ	ダイサギ	留鳥	15	13	34		62
		チュウサギ	旅鳥		1			1
		コサギ	留鳥	1	2	1		4
		アオサギ	留鳥	12	15	18	5	50
カモ	カモ	ツクシガモ	冬鳥		52			52
		マガモ	冬鳥		4	4	142	150
		カルガモ	留鳥	5	152	40		197
		コガモ	冬鳥	4	140	3		147
		オカヨシガモ	冬鳥		93			93
		ヒドリガモ	冬鳥				42	42
		オナガガモ	冬鳥		61		14	75
		ハシビロガモ	冬鳥	7	59			66
		ホシハジロ	冬鳥	1,564	139			1,703
		キンクロハジロ	冬鳥	15	43			58
		スズガモ	冬鳥	1	69			70
		ホオジロガモ	冬鳥		3			3
		ウミアイサ	冬鳥	3				3
		タカ	タカ	ミサゴ	留鳥	1	4	
トビ	留鳥				1	2	1	4
ノスリ	冬鳥				1			1
ハイイロチュウヒ	冬鳥				1			1
ツル	ハヤブサ	ハヤブサ	留鳥	2				2
		チョウゲンボウ	冬鳥		1	1	1	3
		パン	留鳥	4	2			6
チドリ	チドリ	オオバン	留鳥	7	9	1		17
		コチドリ	夏鳥	1	15	2		18
シギ	シギ	シロチドリ	留鳥		68		1	69
		メダイチドリ	旅鳥		1			1
		トウネン	旅鳥		58	21		79
		ウズラシギ	旅鳥		3			3
		ハマシギ	冬鳥		3		1	4
		アカアシシギ	旅鳥				2	2
		アオアシシギ	旅鳥				14	14
		クサシギ	冬鳥	1				1
		キアシシギ	旅鳥	3	27	53	1	84
		イソシギ	留鳥	3	7		3	13
		ソリハシシギ	旅鳥		4	2		6
		オオソリハシシギ	旅鳥		1			1
チュウシャクシギ	旅鳥	2		3		5		

表 2-9-2 (2) 鳥類の調査結果

【平成26～27年度（平成26年8月、平成27年2月、5月、6月）】

目	科	種	区分	地点別出現個体数					
				a	b	c	d	計	
チドリ	ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ	旅鳥		6				6
		ツバメチドリ	旅鳥（一部夏鳥）			1			1
		カモメ	ユリカモメ	冬鳥（一部留鳥）	22	26		4	52
			セグロカモメ	冬鳥	178	8	12	123	321
			ウミネコ	留鳥	19	7	1	219	246
			ハジロクロハラアジサシ	旅鳥		3			3
			クロハラアジサシ	旅鳥		2			2
			アジサシ	旅鳥		47		120	167
			コアジサシ	夏鳥	10	417	6	75	508
		ハト	ハト	ドバト	(移入種)	4	48		
キジバト	留鳥			11	1	10		22	
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	留鳥	2	24			26	
		ツバメ	夏鳥	5	158	7	14	184	
	セキレイ	キセキレイ	留鳥	2				2	
		ハクセキレイ	留鳥	3	11	2	9	25	
		タヒバリ	冬鳥	2				2	
		ヒヨドリ	留鳥	14		22	2	38	
	モズ	モズ	留鳥	1				1	
	ツグミ	ジョウビタキ	冬鳥		3	3	1	7	
		イソヒヨドリ	留鳥	1			2	3	
		シロハラ	冬鳥	1		1	4	6	
		ツグミ	冬鳥	3	34	3	2	42	
	ウグイス	ウグイス	留鳥			1		1	
		オオヨシキリ	夏鳥		17			17	
		セッカ	留鳥	5	35	1		41	
	ヒタキ	ヒタキ	旅鳥（一部夏鳥）			3		3	
	シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥			2	6	8	
	メジロ	メジロ	留鳥	4		11	7	22	
	ホオジロ	ホオジロ	留鳥		12				12
		アオジ	冬鳥			1		1	
		オオジュリン	冬鳥			5		5	
アトリ		カワラヒワ	留鳥（一部冬鳥）	4	6	1	1	12	
ハタオリドリ	スズメ	留鳥	25	141	27	7	200		
ムクドリ	ムクドリ	留鳥	81	33	74		188		
カラス	ハンボソガラス	留鳥	1	3	6	7	17		
	ハシブトガラス	留鳥	14	107	9	50	180		
合計（9目28科79種）			目数	9	9	9	7	9	
			科数	23	22	25	18	28	
			種類数	45	59	41	31	79	
			個体数	2,154	2,544	440	974	6,112	

(注) 1. 分類及び種の配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成26年度版生物リスト」(国土交通省、2015)に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」((財)日本野鳥の会大阪支部、2002)に従った。

出典：「平成26年度 大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査報告書(年報)Ⅱ事後調査結果」(大阪湾広域臨海環境整備センター、平成27年8月)

表 2-9-3 鳥類の重要種の選定基準

番号	文献及び法律名等
1	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号) 「大阪府文化財保護条例」(昭和 44 年大阪府条例第 5 号) 「大阪市文化財保護条例」(平成 11 年大阪市条例第 5 号)
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)
3	「レッドリスト 2017 鳥類」 (環境省、平成 29 年 3 月)
4	「大阪府レッドリスト 2014」(大阪府、平成 26 年 3 月)
5	「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発」 (京都大学学術出版会、平成 14 年)

表 2-9-4 重要種一覧

No.	種名	種の貴重性						
		天然記念物 *1	希少動物 *2	レッドリスト 環境省 *3	レッドリスト 大阪府 *4	近畿地区 鳥類 ブレイク *5		
						繁殖	越冬	通過
1	カンムリカイツブリ					3		
2	チュウサギ			NT		3		
3	ツクシガモ			VU			2	
4	マガモ					3		
5	ホオジロガモ						3	
6	ウミアイサ				NT		3	
7	ミサゴ			NT		2		
8	ノスリ				NT		3	
9	ハイロチュウヒ				NT		2	
10	ハヤブサ		I	VU		3		
11	チョウゲンボウ						3	
12	オオバン					3		
13	コチドリ				NT	3		
14	シロチドリ			VU	VU	3		
15	メダイチドリ		II		VU			3
16	トウネン				NT			3
17	ウズラシギ				VU			3
18	ハマシギ			NT			3	
19	アカアシシギ			VU	NT			2
20	アオアシシギ				VU			3
21	クサシギ				NT		3	
22	キアシシギ				NT			3
23	イソシギ				NT	2		
24	ソリハシシギ				VU			3
25	オオソリハシシギ			VU	VU			3
26	チュウシヤクシギ				NT			3
27	ツバメチドリ			VU	CR+EN			2
28	ウミネコ					4		
29	ハジロクロハラアジサシ							3
30	コアジサシ			VU	CR+EN	2		
31	ヒバリ				NT			
32	ハクセキレイ					4		
33	イソヒヨドリ					4		
34	オオヨシキリ				NT	3		
35	セッカ				NT	4		
36	コサメビタキ				VU	4		
37	アオジ					3		
38	オオジュリン				NT			

(注) *1：文化財保護法により地域を定めずに天然記念物に選定されている種及び亜種を示す。

特：国指定特別天然記念物 国：国指定天然記念物

*2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成5年4月施行）において、希少野生動植物種に指定されている種及び亜種を示す

I：国内希少野生動植物種 II：国際希少野生動植物種

*3：「レッドリスト（鳥類）、環境省、2017」に選定されている種及び亜種

CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧

DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

*4：「大阪府レッドリスト」（大阪府環境農林水産部、2014）に選定されている種及び亜種

CR+EN：絶滅危惧 I 類（絶滅の危機に瀕している種） VU：絶滅危惧 II 類（絶滅の危機が増大している種）

NT：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種） DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種）

*5：「近畿地区鳥類レッドデータブック 絶滅危惧種判定システムの開発」（江崎保男・和田岳編著、2002）に選定されている種及び亜種

①繁殖個体群

ランク1：危機的絶滅危惧 ランク2：絶滅危惧 ランク3：準絶滅危惧 ランク4：特に危険なし 要：要注目種

②越冬個体群

ランク1：危機的絶滅危惧 ランク2：絶滅危惧 ランク3：準絶滅危惧 ランク4：特に危険なし 要：要注目種

DD：情報不足

③通過個体群

ランク1：危機的絶滅危惧 ランク2：絶滅危惧 ランク3：準絶滅危惧 ランク4：特に危険なし 要：要注目種

2) 哺乳類

「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 哺乳類分布調査報告書」(環境省、平成16年3月)によると、大阪港周辺地域においては調査対象の大型哺乳類(ニホンザル、カモシカ、ニホンジカ、ツキノワグマ、ヒグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ)が生息するという情報は得られていない。

3) 昆虫類

「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査報告書(昆虫(トンボ、チョウ、水生半翅、セミ、ガ、甲虫)類)」(環境省、平成14年3月)によると、大阪港周辺地域における学術上重要な昆虫類の分布状況は図2-9-3に示すとおりであり、マルガタゲンゴロウ及びケシゲンゴロウが確認されている。

4) 両生類、爬虫類

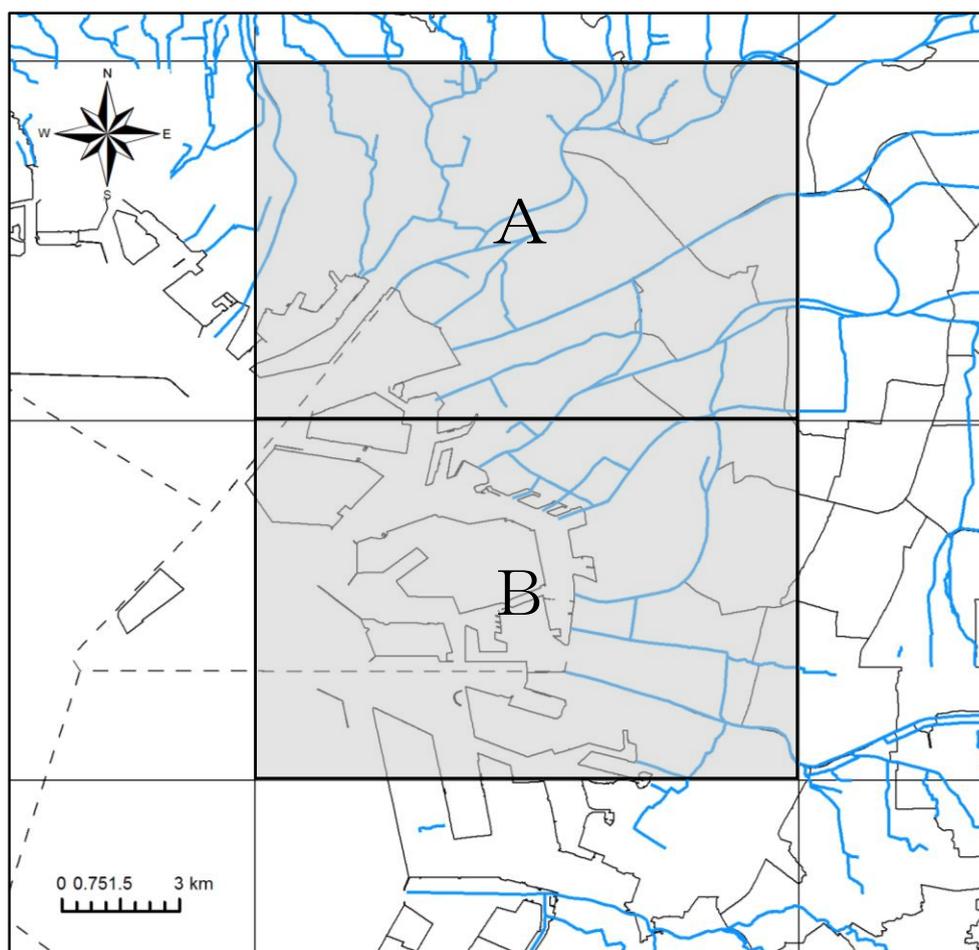
「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査報告書(両生類・爬虫類)」(環境省、平成13年10月)によると、大阪港周辺地域においては、学術上重要な両生類、爬虫類の生息は確認されていない。

5) 淡水魚類

「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査報告書(淡水魚類)」(環境省、平成14年3月)によると、大阪港周辺地域における学術上重要な淡水魚類の分布状況は図2-9-3に示すとおりであり、ズナガニゴイ及びニホンウナギが確認されている。

5) 鳥獣保護区等の指定状況

大阪港周辺地域における鳥獣保護区等の指定状況は、図2-9-4に示すとおりである。



エリア	A		B	
分類	淡水魚類		昆虫類	
種名	ズナガニゴイ	ニホンウナギ	マルガタゲンゴロウ	ケシゲンゴロウ
大阪府RL	CR+EN	VU	CR+EN	NT
環境省RL	-	EN	VU	NT

(注) 特定昆虫類・淡水魚類の選定基準は、次のとおりである。

CR:絶滅危惧ⅠA類

EN:絶滅危惧ⅠB類

VU:絶滅危惧Ⅱ類

NT:準絶滅危惧

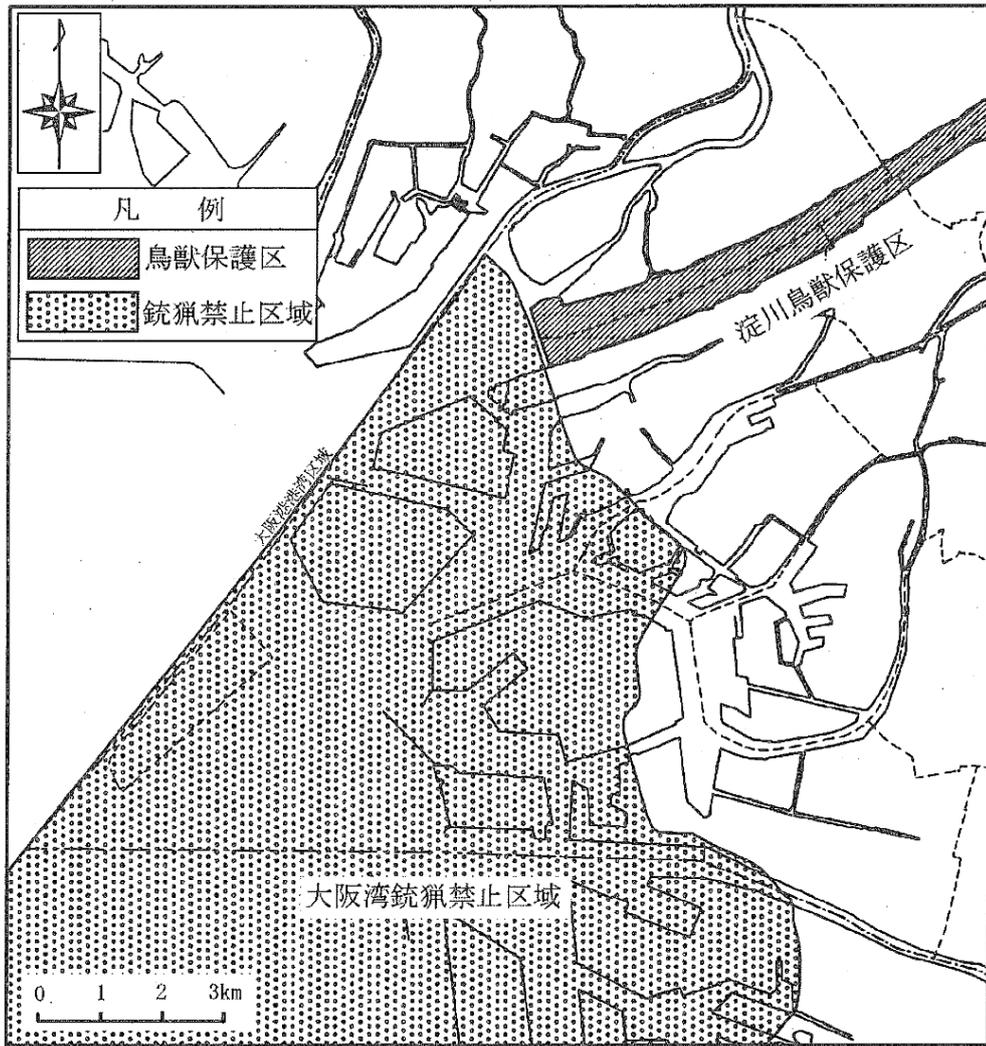
DD:情報不足

出典:「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査報告書(昆虫類)」
(環境省、平成14年3月)

「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査報告書(淡水魚類)」
(環境省、平成14年3月)

生物多様性センターHP「http://gis.biodic.go.jp/webgis/?_ga=1.257297867.1764745897.1491461693」

図 2-9-3 学術上重要な昆虫類・淡水魚類の分布状況



出典：「平成 28 年度 大阪府鳥獣保護区等位置図」（平成 28 年、大阪府環境農林水産部）

図 2-9-4 鳥獣保護区等の指定状況

(3) 海生生物

1) 調査概要

大阪港周辺では、大阪湾広域臨海環境整備センターにより海生生物調査が行われている。
海生生物調査の概要は表 2-9-5 に、調査地点は図 2-9-5 に示すとおりである。

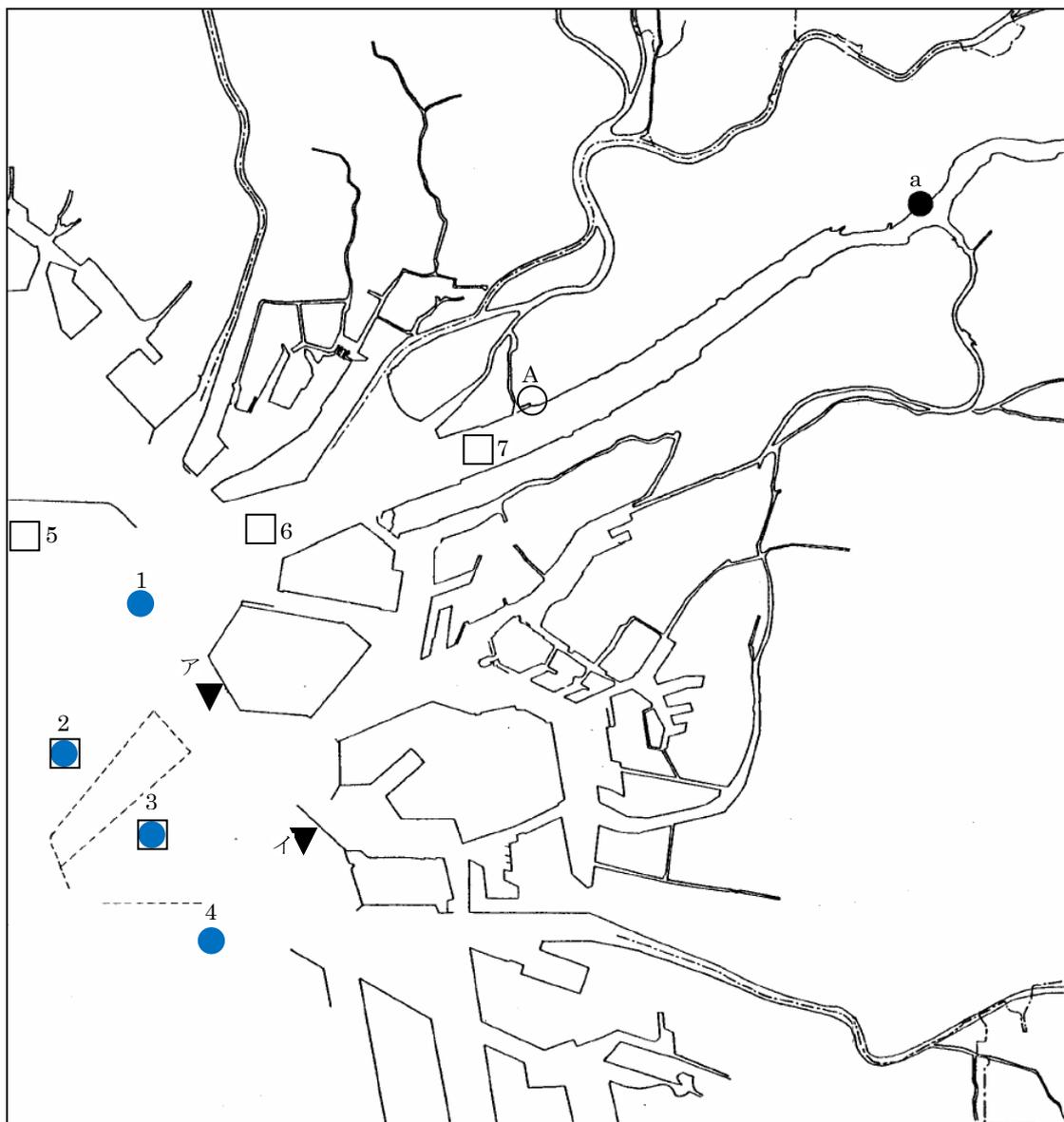
表 2-9-5 (1) 海生生物調査の概要

項目	調査地点等	調査期間等	調査方法	
植物 プランク トン	4点(1~4) × 2層 上層：海面下 1m 下層：海底面上 2m	平成 21 年 5 月 12 日 8 月 11 日 11 月 10 日 平成 22 年 2 月 2 日	バンドーン型採水器を用いて、表層（海面下 1m）、底層（海底面上 2m）より採水を行い、現地にて固定後、室内にて沈殿濃縮後、種の同定及び細胞数の計数を行う。	
動物 プランク トン	4点(1~4)	平成 21 年 5 月 12 日、 8 月 11 日 11 月 10 日 平成 22 年 2 月 2 日	北原式定量ネットを用いて、海底面上 1m から海面まで鉛直曳きを行い、試料を濃縮後、種の同定及び個体数の計数を行う。	
底生 生物			平成 21 年 8 月 11 日 平成 22 年 2 月 2 日	スミスマッキンタイヤ型採泥器を用いて表層泥を 2 回採泥し、採取した底泥を 1mm のふるいでふるい、ふるい上に残った試料を採取して、底生生物の種別個体数の計数、湿重量の測定を行う。
付着 生物	2点(ア, イ) × 3層	平成 21 年 5 月 7 日、 8 月 1 日 11 月 1 日 平成 22 年 2 月 2 日	種組成、 湿重量、 個体数等	①ベルトトランセクト法 ダイバーが飛沫帯から海底付近にかけて 50cm×50cm のコードラート（方形枠）を用いて、連続的に目視観察を行い、出現種及び被度もしくは個体数を調査し、写真撮影を行う。 ②坪刈り ダイバーが各地点の平均水面、大潮最低潮面及び大潮最低潮面-1m の 3 層において、30cm×30cm (0.09cm ²) のコードラート（方形枠）をあて、枠内の全ての生物を刈り取り、湿重量の測定、種の同定及び個体数の計数を行う。
		平成 21 年 5 月 7 日、 8 月 1 日 11 月 1, 4 日 平成 22 年 2 月 1 日	ムラサキ イガイ現 存量	①枠取り調査 ダイバーにより、ムラサキイガイの分布が比較的均質な場所を選定し、分布層の上位、中位、下位の 3 層で 50cm 方形枠の範囲内の試料を採取する。採取したサンプルは、各検体 100 個体を抽出、殻長、殻高、湿重量を測定する。 ②目視観察 ダイバーにより、0.5~1m 毎に被度と厚みを測定する。

表 2-9-5 (2) 海生生物調査の概要

調査項目			調査地点等	調査期間等	調査方法	
水産生物	ヨシエビ等	小型底曳網調査	5点(2, 3, 5~7)	平成21年4月24日、5月12日 6月2日、7月14日 8月11日、9月8日 10月6日、11月10日 12月8日 平成22年1月8日、2月2日 3月9日	種別個体数、全長	大阪府側の調査地点についてはカバーネット付き石桁網(目合い8mm)、兵庫側の調査地点については泥こぎ網(目合い15mm)を用いて曳網し、試料を採取して、生物の種別個体数の計数、湿重量及び全長・体長の測定(全長、体長については漁獲対象種のみ)を行う。
					水温、塩分、DO	船上より水質測定機器(クロロテック【AAQ1183(アレック電子社製)】)を垂下し、海面下0.5m、1m、以下1mピッチで底上1mまで測定することにより行う。
	アユ遡上調査	淀川大堰の魚道	平成21年4月20日~21日 5月4~5日 5月19~20日 6月2~3日	遡上量	調査員の目視により、1時間ごとに10分間、アユの固体数の計数を24時間実施する。	
				水温	棒状温度計による	
		小型地曳網調査	1点(A)	平成21年3月2日、4月28日 10月14日、11月12日	種別固体数、全長	小型地曳網等を用いて曳網し、試料を採取する。曳網は、浅場で2回、深場で2回、それぞれ100m程度、計4回実施する。採取したサンプルについて、種の同定、種別個体数の計数、湿重量及び全長の測定を行う。
					水温、塩分	水温・塩分計による

参考：「平成21年度 大阪沖埋立処分場建設事業に係る自主調査報告書」(大阪湾広域臨海環境整備センター)



植物・動物プランクトン、底生生物 (1~4)		●
付着生物 (ア, イ)		▼
水産生物	ヨシエビ等	□
	現存量調査	○
	アユ遡上調査	●
	小型底曳網調査 (2, 3, 5~7)	□
	小型地曳網調査 (A)	○

参考：「平成 21 年度 大阪沖埋立処分場建設事業に係る自主調査報告書」(大阪湾広域臨海環境整備センター)

図 2-9-5 海生生物の調査地点